

” 統合ブランド ” 徹底的な品質管理・・・不況に勝つ。

日本は今。GLASS GALLERY291 の朴昭英眼鏡士

“親戚のなか一人は眼鏡業界に関係者がいる” と言えるくらい、日本の福井県の眼鏡産業は、市場占有率の 90%以上をしめしている占めている代表的な産業だ。

でも 2000 年代に入ってから低価格大手チェーン店が台頭し、中国製品が市場を席卷し始め福井県の眼鏡業界に危機感が広まった。

それで日本最大眼鏡産地福井県の福井県眼鏡協会は統合ブランド ” THE291 ” を安心安全の眼鏡を提供する為に立ち上げた。

“消費者が安心して購買出来るように” という一念で、THE291 に登録されているブランドの商品は ISO 認証検査を受けるなど徹底な品質管理を通して消費者に。

また福井県眼鏡協会は 2008 年 11 月東京南青山に協会にとろくされている加盟している会社の商品を展示するショールーム GLASS GALLERY291 を設立した。

GLASS GALLERY291 ではギャラリーという名前にふさわしい色々な会社の商品を見ることが出来る。

今回、鏡国際総合展示会 (IOFT) を迎えて、日本現地の動向を日本 GLASS GALLERY291 に勤めている朴さんに聞いた。

韓国から日本の文化やメガネ市場を見てみたいとの気持ちで日本に行ったのがきっかけでギャラリーと縁が結ばれたという朴さんは自分が仕事をしている GLASS GALLERY291 を日本製品特有の安心・安全・感動をメガネの使用者にお伝えする、世界有数の眼鏡産地福井県鯖江市・福井市産の日本製眼鏡を直営で展示するショールームとして市場発想の商品開発を行うギャラリーだと紹介した。

また朴さんは”日本も最近不景気の影響でメガネ業界全般打撃を受けている”と”安価の中国製を販売する大手チェーン店が増えている”と話した。

でも“安かったので使ってみたけど、フィット感が良くなかった・長持ちが出来なかった”という顧客の声を引用して、日本眼鏡の長所を“東洋人の顔の構造を考慮して製造されているのでフィット感が優れていて、デザインも東洋人の顔に合う設計になっているので掛けるともっと洗練されたおしゃれ感を演出出来る”と話した。

このショールームは商談の場としても機能しており、眼鏡メーカーとバイヤー両社の商談便宜を図る機能を持つ場所としての長所もある。

“最近円高の影響で日本製の韓国輸出が少なくなっている。”と“日本はチタン・韓国はステンレスなど其々各国の強みを尊重しながら、眼鏡業界が発展して欲しいと両国の眼鏡産業の見解を明かした。

GLASS GALLERY291 ではデザイン性が高い国内(韓国)でも多く知られているボストンクラブの JAPONISM、それ以外にもゴムメタルを使用して装用感を高めている DUN・産地統一ブランド THE291 など色々な福井県眼鏡製造社の製品が展示されている。またギャラリーに展示されている眼鏡製造社の中サンオプチカルという会社の主催で、セルフフレームを直接作ってみることが出来るメガネ手作り教室を開催している。お問い合わせはホームページを。